

奈良県東部の中山間地域における工房街道づくり

奈良のむらづくり協議会 研究員 ○大森淳平
工房街道推進協議会 会長 澤井輝雄

1. 活動方針・目的

奈良県東部の中山間地域は、地域活力の低下が著しいが、この地域には、連綿と引き継がれ、優れた技術をもって発展してきた伝統産業や地場産業の工房が数多く立地する。また、木工や紙漉きなど様々な分野のデザイナーや芸術家が移住し工房を構えており、立地する工房は150を超えている。一方、この地域は、高度経済成長期以降の都市的開発から取り残された地域であり、日本のふるさとの景観を今に伝えている。

そこで、この地域を工房街道と称し、工房間の連携の強化、工房が集中立地する地区間の連携の強化を図り、同時に、他地域との連携を拡大し、多様で充実したサービスの提供ならびに新価値創造にあたっての共通課題を解決し、訪れてくださる方々の生活文化の向上と地域活力の増進に寄与することを目的とする。

2. 活動内容

種類	事業内容
(1) 工房間の連携と工房が集中立地する地区間の連携の強化、他地域との連携の拡大に結びつく事業	①PR作戦の展開と交流イベントの開催
	②工房街道の拠点づくり
	③工房街道の情報システムの整備
	④工房街道ブランド・工房街道キットの開発
(2) 訪れてくださる方々との信頼関係の構築と新価値創造に結びつく事業	①来訪者受入れのための条件整備の支援
	②地域の食文化の向上と来訪者への提供

3. 過去の失敗事例

工房は、観光・交流用ではなく日常の作業場であるため、45名が参加した各工房を巡る工房街道バスツアーでは、各工房で受入れきれない、説明が行き届かない、みやげ物がすぐに売りきれなどの問題が生じたが、こうしたイベントを通じて受入れ課題が整理されてきており、受入れ基盤の充実やイベントの受入れ規模の限定など、地域の実情に即した受入れ体制について検討を進めている。

4. 今後の課題等

- ①個別工房・個別地区だけでは、観光交流客の受入れ基盤が不十分であるため、工房間ならびに工房集中立地地区間のネットワークを構築し、受入れ体制の充実を図る。
- ②地域に豊富にある、優れた素材を活かす工房街道ブランドづくり・キットづくりを行う。
- ③人が集まり、様々な情報が交換され、新しいデザインが生まれる「工房街道」の拠点の形成を図る。
- ④上記の基盤となる情報システムを構築し、工房街道の「人」「工房」「まちやむら」「宿泊施設」「交流施設」「生産するもの」「提供する食事」などと来訪者・域外住民の交流を容易にする。
- ⑤工房が中心となる活動であるため、地域住民との協力体制が十分ではない。このため、マスコミ等を通じて定期的に情報を発信し、地域住民に活動を認識してもらい、協力してもらう。

奈良県東部の中山間地域における工房街道づくり



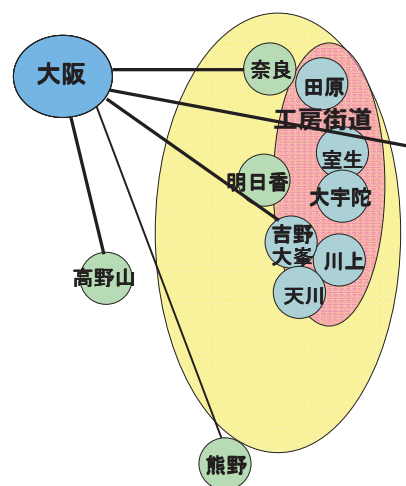
1. 工房街道事業の趣旨と経緯

奈良県東部・中部の中山間地域の現状

- 若者の流出や高齢化の進行による地域経済の低迷
- 大阪を中心とする放射状交通体系の影響により、地域としてのまとまりに難がある。

奈良県東部・中部の中山間地域のポテンシャル

- この地域には、連綿と引き継がれ、優れた技術をもって発展してきた伝統産業や地場産業の工房が数多く立地する。また、木工や紙漉きなど様々な分野のデザイナーや芸術家が移住し、工房をかまえている。
- この地域は、高度経済成長期以降の都市的開発から取り残された地域であり、日本のふるさとの景観を今に伝えている。



多くの工房が立地する生活文化豊かな「工房街道」として、都市住民に認識してもらうことができれば、また、質の高い生活・空間演出用工芸品等を各工房において来訪者に提供できれば、「何度も訪れて地元住民と信頼ある交流関係を築き、来訪するたびに満足を持ち帰る観光交流地」として発展していくことが可能であると考える。

2. 工房街道事業の趣旨と経緯

2006年秋 奈良県東部・中部中山間地域における工房立地調査

2007年2月 奈良のむらづくり協議会設立

→ 奈良のむらづくり協議会が
工房街道事業を推進

2007年2～6月 工房立地調査、工房街道への参画意向調査

2007年7月 「奈良のむらづくり-来訪者との間に信頼関係が醸成され、地域の自律発展につながる観光・交流の創出」が、国土交通省「観光地域づくり実践プラン」に選定される

2007年7～8月 工房街道ウィーク・工房街道ツアーの実施

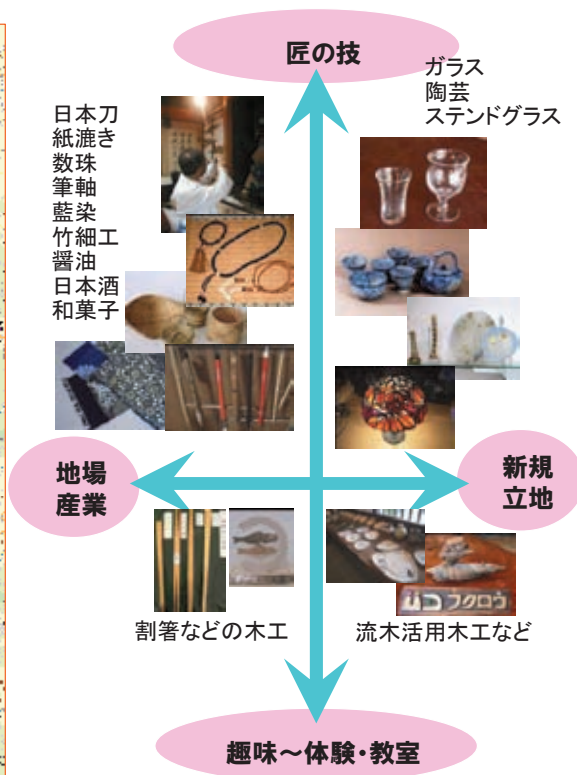
2007年9月 シンポジウム:奈良のむらづくり-2「観光地域づくり実践プランをいかに実行するか」を開催

2008年7～8月 工房街道バスツアーの実施
工房街道ワークショップの開催
工房街道推進協議会の設立

→ 工房街道推進協議会・奈良のむらづくり協議会の協力により具体的に事業展開



2. 工房街道事業の趣旨と経緯



工房街道ウィーク（2007年）

工房街道ウィーク

2007年7月30日(月)～8月5日(日)の1週間を「工房街道ウィーク」とし、奈良県東部・中部の中山間地域(室生、大宇陀、吉野、川上)の42工房を開放し、見学・体験を入れた。なお、工房街道ウィーク中は、街道沿いに幟を立て、来訪者を歓迎し、誘導した。

陶芸やガラス工芸、紙漉き、数珠、筆軸、ステンドグラス
 トンボ球、刀鍛冶、草木染め など

42工房が参加

延べ1,000名程度が来訪

◎参加者の反応

- ◆期待どおりおもしろかったので、また行きたい
- ◆商品・制作品を展示・販売して欲しい
- ◆工房を開設したいという都市住民も…



工房街道ツアー（2007年）

工房街道ツアー

地域の人々と都市住民(観光客・移住希望者)のつながりをつくるために、工房に興味を持つ団塊の世代、学生、親子などを対象に、【室生エリア】、【大宇陀エリア】、【吉野エリア】の3地区において、工房体験、及び里地・里山体験を含む「工房街道ツアー」を実施した。

工房体験に加え、その土地でしか味わえない体験を盛り込んだ、これまでの奈良にはないツアー

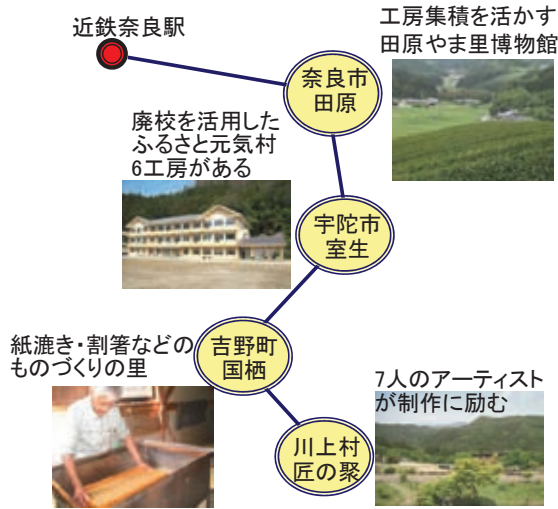
参加者(都市住民)の反応

- ◆これまでの奈良とは違った新たな魅力に関心が示された。(→「体験」プログラムの有効性)
- ◆「日本のふるさと」的な景観・雰囲気が残る当地域では、工房体験のみならず、田舎ならではの自然とのふれ合いや地域固有の体験も重要であった。
- ◆ツアー参加者と地元住民、参加者同士の繋がりができ、以後、個別に再訪する動きが生まれた。



工房街道バスツアー（2008年8月22日）

奈良新聞 2008年8月25日



匠の技と豊かな自然



新聞報道等により、申込み60件

◎参加者の反応

- ◇ ツアー内容に興味をもった参加者が大半
- ◇ 特に、工房での体験や実演見学に興味
- ◇ 一人あたりの平均消費額は1,200円（購入できる場所が少なかった…）
- ◇ 販売拠点、くつろげる空間、美味しい食事などを求める声
- ◇ ゆっくり滞在して工房体験や自然体験がしたいという要望
- ◇ 工房を開設したいという都市住民も…

3. 工房街道推進協議会

目的および事業方針



150を超える工房の集積



「何度も訪れて地元住民と信頼ある交流関係を築き、来訪するたびに満足を持ち帰る観光交流地」としての地域発展を成し遂げる。また、それを通して、地域経済の好循環を生み出す。

- ① 個別工房・個別地区だけでは、観光交流客の受入れ基盤が不十分であるため、工房間ならびに工房集中立地地区間のネットワークを構築し、受入れ基盤の充実を図る。また、「工房街道」としての知名度を高め、観光交流の拡大を図る。
- ② 地域に豊富にある、優れた素材を活かす工房街道ブランドづくり・キットづくりを行う。このとき、都市で活躍しているデザイナー等と連携することにより、地域のデザイン力、加工・販売力を高める。
- ③ 人が集まり、様々な情報が交換され、新しいデザインが生まれる「工房街道」の拠点の形成を図る。
- ④ 上記の基盤となる情報システムを構築し、工房街道の「人」「工房」「まちやむら」「宿泊施設」「交流施設」「生産するもの」「提供する食事」などと来訪者・域外住民の交流を容易にする。